

講義名	中小商業論		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	向山 雅夫		
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限	授業形態	
履修開始年次	3年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

「中小商業が流通において果たす役割」について理解することが本講義のテーマである。

人々の目は華やかな大規模小売業に向きがちであるが、実は中小小売商業は独自の世界を作っており、その存在は極めて重要である。また中小小売商業から大規模小売商業への成長の可能性もある。商業の世界は奥深いことに気づいてもらう。

到達目標

- 以下の点について能力を高めること。
1. 流通の仕組みについて理解する
 2. 中小商業の存在意義を知る
 3. データが意味するものを読み取る
 4. 現実から情報を読み取る力を養う

提出課題

- ①現地取材型の調査レポートを、中間レポートとして実施し、報告会を実施する
- ②中小商業についての副読本を一冊指定し、その内容に関するレポートを実施する（予定）
- ③グループ研究のプレゼン会を実施する

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

中間レポートは報告会において講評し、グループ研究は全チームに報告させる。

評価の基準

①最終試験、②各種レポート、③講義中の発言の程度、の各得点をもとに評価する。ただし、レポートは通常よく実施される形式だけではなく、ユニークな形式で実施する。

また、出席者との双方向のやり取りを取り入れた講義を実施するので、講義中の発言程度を評価し、講義へ貢献した受講者には高い評価が与えられる。詳しい仕組みは、講義初めに詳細に説明する。

履修にあたっての注意・発言他

- 本講義は受講者数限定で、少人数制で実施され、また評価の視点が他の講義とは全く異なるので、必ず以下の注意事項を詳細に読んでから、履修すること！！
- ①本講義を履修する学生は、15回全部出席しなければならないし、たて毎週座っているだけでは単位取得できない
 - ①★★★履修可能人数を50名に限定する★★★
 - ②学生が座席のまま移動可能な教室（3306予定）を用い、輪になって受講する
 - ③各学生の氏名を書いたネームプレートを毎回着用し、SAが学生の発言度をチェックする（学生の氏名と顔を教員が把握した状況下で講義する）
 - ④★★★受講者をチーム分けし、グループ研究を講義中に実施する★★★
 - ⑤★★★受講者には、第3回目の講義日までに自主的に学外の商店街を見学に行ってもら★★★
 - ⑥外部から専門家の講師を招聘する（2回程度）
 - ⑦スマホの電源を切ってもら
 - ⑧現場取材型の中間レポートを課し、優秀作品を紹介するレポート発表会を開催する。

本講義では、居眠りをすることはできないし、内職もできないし、講義中ずっとスマホをいじることができないし、私語もできない。また講義を適当に欠席することもできない（グループ研究の妨げになるので）。講義形式としては、ゼミ・スタイルを採用するが、この場合の意味は、「適当に出席していれば単位が取れる」といういい加減なゼミスタイルを意味していないことに留意されたい。一方で、少人数で本当に意味で学びたい、しかも他の講義にはない方法で！と思う学生に

教科書
. 使用しない。

プリント資料及び参考文献

- 参考文献
・渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫、『21世紀中小企業論（第3版）』、有斐閣アルマ、2013年
・加藤司・石原武政（編著）、『地域商業の競争構造』、中央経済社、2009年

授業計画

- 回数 授業計画
- 10月1日 カイザース&中小商業は必要か？
10月8日 中小商業の基礎理論（1）
10月15日 中小商業の基礎理論（2）
10月22日 講義テーマの決定（全体ディスカッション）
10月29日 講義テーマ1についての講義
11月5日 講義テーマ2についての講義
11月12日 講義テーマ3についての講義
11月19日 講義テーマ4についての講義とグループ分け
11月26日 各自に割り当てられたテーマについての自主調査日
12月3日 グループ・ディスカッション
12月10日 グループ・プレゼン（4グループ）
12月17日 中小商業の起業
12月24日 中小商業の活性化
1月7日 中間レポート報告会
1月14日 まとめ（予備日）

なお上記計画は後期開始時までには少々変更される可能性がある。最終的な計画は、後期開始時に提示する。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

- | |
|--|
| ア：PBL（課題解決型学習） |
| イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） |
| <input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート |
| <input type="radio"/> エ：グループワーク |
| <input type="radio"/> オ：プレゼンテーション |
| カ：実習、フィールドワーク |

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- 予習：本講義の内容に関連する参考文献を副読本として各自で自由に読破し、講義内容の理解を容易にする努力をしてほしい。
- 復習：毎週の講義内容を現実の動きと照らし合わせることで、講義内容をより深く理解してもらいたい。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

上記「履修に当たっての注意」を参照せよ。

実務経験の有無及び活用

実務経験なし。
この科目を講義するにあたって、実務経験などは全く役に立たないので不要である。もし私の前職が、魚屋さんであれば役立つだろうけれど。。。それゆえ、私も少し現場に近い立場の外部専門家を2回招聘して講義してもらおう（ただし、その専門家は元魚屋さんでないことは言うまでもない）。

備考

本年度の講義は、これまでのこの講義と内容を一新し、また講義スタイルやレポート形式・単位取得方法についても、大きく変更している。狙いは、学びたい学生に真剣に講義に取り組んでもらうための新たなチャレンジをすること、である。よって、出席する学生には正しい「学びの姿勢」を強く求める。